

あとがき

遠征が終了してから半年、計画を発案してから3年半という月日が経過した。

今、思い返してみると遠征実施中よりも準備の段階の方に苦労が多かったように思う。特に遠征を1年延期せざるを負えないと決定した直後、隊員が2名離脱し、更に中国側から許可に対する保証金を要求された時は、こういう事になったのは自分のせいだと思う自責の念と全てを投げ出したいと思う気持ちで精神的にかなりまいっていたこともあった。

しかし、どんなに最悪の状況になっても、粘り強くがんばれば、いつか必ず実現できると思っていた。その原動力になったのは「砂漠の川を下ってみたい」という情熱からである。

さて、遠征が無事終了することができたのは、私達5名の力だけではないことは言うまでもない。多くの方々のご協力があったからこそである。OB会、顧問の先生方、大学当局、特に学生課、前理事長の故久井忠雄氏、理事の植田正路氏、評議員の柳楽喜祐氏、校友会副会長の徳山喜昭氏、学外では朝日新聞社や装備、食糧、医療などで多大なご援助を賜った関係各位、中国国内では在上海日本総領事館、一緒に活動した新疆大自然旅行社の方々など多くの人たちのご厚情にあらためて深く感謝申し上げます。

隊長：山田勅之

関西大学タクラマカン砂漠縦断カヌー航行遠征隊
——タリム川カヌー航行——
報告書

発行日 1992年3月20日
編集、発行 関西大学探検部
大阪府吹田市千里山
印刷 河村印刷株式会社
尼崎市昭和通1-13-17